

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470200938
法人名	社会福祉法人 青山里会
事業所名	四郷グループホーム
所在地 (電話番号)	三重県四日市市西日野町小溝野4014 (電話) 059-322-1859
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 6 月 22 日(金)

【情報提供票より】 (H19年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 12人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(6 月 4 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	12 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小山田記念温泉病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の幹線道路から少し奥まったところにホームがある。周りは木々にかこまれ、自然豊かなところである。ホームの母体は県下でも有数の大規模の福祉法人で、同一敷地内には通所介護、居宅支援、訪問介護、訪問看護など居宅介護事業所が併設されて、その連携も良い。利用者の自立支援をサポートする取り組みが実践され、利用者の穏やかな笑顔から、安心した生活を送られているのが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価で指摘をうけた、排水関係の臭いについて、業者の点検回数を増やし、センサーを自動に切り替えるなどして改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で取り組み、管理者がまとめて報告された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の取り組みがされていない。地域住民、、民生委員、家族、市職員等を交えた会議の開催を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や介護計画の作成、見直しなどを通じて、家族の思いを聞き出すようにしている。ご意見箱の設置、重要事項説明書に苦情申し先が明記されている。更には、家族同士の交流を持てる場の提供も望みたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公立中学校の文化祭に招かれたり、隣接のアパートの住民の小さなお子さんを連れて若いお母さんとの交流ができつつある。散歩で地域の方との触れ合う機会もある。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての取り組みは、今、試行錯誤中であるが、利用者の自立支援を目指した介護を実践している。	○	ホーム独自の理念を明確化し、地域密着型サービスの構築を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から申し送り時、ミーティングで職員に話がされて共有しており、利用者の自立を目指した介護が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の公立中学校から、文化祭に招かれ交流したり、隣のアパートの住民とフェンス越しに会話をしたり、また散歩で馴染みの方ができて付き合いが始まっている。	○	ホームの建物が、併設された居宅介護支援事業所の奥に位置し、近隣の方との交流が難しいが、自治会や老人会など地域の方との交流など、ホームとしての取り組みをぜひお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員間で検討された。外部評価で指摘された「におい」について、清掃管理者の点検の回数を増やし、センサーを自動に切り替え、改善に努めた。また、介護計画の見直しの時期の指摘を受け、6ヶ月に1回の見直しを3ヶ月に1回に改善した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の取り組みがされていない。	○	早急に、運営推進会議の立ち上げを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の法人が窓口になっているため、直接市との関わりはない。	○	ホームとして、市と連携する機会を作っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	不定期ではあるが、行事などの報告を「ホーム便り」で発信している。家族が来訪された機会に、様子を伝えている。	○	定期的に「ホーム便り」の発行を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の相談、苦情の窓口は明記し、家族へ知らせている。家族の来訪時、介護計画作成時、家族の同意を得るときに、家族からの思いを十分聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	規模の大きな法人ゆえ、職員の異動は避けられない。異動があれば、引継ぎをしっかりと、対応に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修、グループホーム連絡協議会での研修は、順次参加しており、研修後には、レポートを提出し、回覧され、申し送りやミーティングでも報告がされている。職員は自主的に資格取得の勉強にも励み、資質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体の法人の職員間の交流もよくあり、またグループホーム連絡協議会に加入して、研修などを通じて職員の交流がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初はショートステイで体験してもらい、ホームへの入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩で、職員は先輩から教えてもらう姿勢で接しており、一つひとつの取り組みに利用者の目線に立った支援がされている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで本人、家族の希望を聞いて、過去の生活歴、環境を把握し個別の介護計画が作成されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当を決めて、担当者が中心となって他の職員とともに介護計画が作成されている。介護計画は、利用者の思い、職員の気づき、家族の希望をふまえて作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しがされている。また、変化があれば随時見直しがされる。「精神症状及び問題行動チェック表」の記録が毎日されて、変化の対応に見落としのないようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の来訪の機会として、通院や理美容院へ行くことなどは家族へ依頼している。家族が出来ないときは、ホームで対応している。	○	母体の法人でのきまりがあり、ホーム独自での取り組みが難しい面があるが、多機能性を活かす柔軟性をもった支援の取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は、家族に依頼しているが、受診時には利用者の日ごろの様子を書面で医師に伝えるようにしている。受診後は家族から医師の所見を聞いて把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては終末期ケアはしていないが、重症化、終末期には母体の法人関係施設等の紹介を入居時に本人、家族へ説明がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけには十分注意を払い、自尊心を損なわないよう配慮がされている。プライバシーに関わる書類の整理は、必ずシュレッダーを使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調にあわせて、ゆっくり過ごすよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査日の昼食は、細巻き寿司と焼きそばのメニューで、利用者が作られみんなで味わった。自分たちが作った物は殊に美味しく、お代わりされる方もあった。後片付けも職員のサポートで利用者がそれぞれの役割を發揮されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日ある。午後の時間帯にゆっくりと入浴を楽しむよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事のおしながきは書の得意な利用者が担当している。園芸の得意な方は、草取りや花の水遣りなど率先してやっている。玄関先にすのこが置いてあり、そこで外の空気にふれながら、おしゃべりを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり、近所へ散歩に出かけるなど支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けられていない。ただし、家族の了解のもと、午後の入浴時には職員が手薄になり鍵はかけられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の居宅介護支援事業所と合同の防災訓練を計画している。災害備蓄用の飲料、食料がきちんと箱に入れて保管がされている。	○	いつ起きるかわからない災害への対策は、母体の法人とともに、決め細かく対応策を講じておかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の法人の管理栄養士が献立を担当しており、栄養のバランスには十分な配慮がされている。水分補給は、マニュアル化され、きめ細かく補給されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	端午の節句飾りや雛飾りなど季節の折々の飾り物をして季節感を味わってもらうようにされている。壁には利用者が作ったパッチワークや大きな貼り絵が飾られて和ませている。ホーム内は清掃も行き届き、絵画やお花が生けられて明るく気持ちも落ち着く配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな整理ダンスやテレビなど思い思いの物が居室におかれ整理も行き届いている。居室ごとに洗面台が設置され、プライバシーも守られている。		